

来年度、「授業改善プロジェクト」が行われます。

来年度、すべての特別支援学校で「授業改善プロジェクト」が取り組まれます。本校でも、授業評価を含めた取組が行われる予定ですが、実施計画が進む中で「よい授業」は何かを考える機会にもなっています。

聴覚障害児教育における授業では、「通じる」授業、「分かる」授業、「考える」授業を創造することが大切だと教わった覚えがあります。

「通じる」授業とは、「ことば」への配慮をし、手話などを用いてコミュニケーション活動を活発化させることが重要だということのようです。「分かる」授業にするためには、経験を掘り起こしたり、具体物を用いたり視覚に訴えたりする指導が重要になります。「考える」授業を展開するには、遊びの要素を取り入れたり、発問を精選したりすることも必要になります。これらは、大切なことのほんの一部ですが、あらためて読み直すと、忘れがちになっていることで反省せざるをえません。

右表は、ずいぶん前に、国語の授業を振り返るために作成したチェックリストです。『国語をどう征服させるか～100デシベルの壁を乗り越えて～』（今井秀雄監修）という本の中から、悪い授業例として示されていたものを改変したチェックリストです。

日ごろのかかわりの中で反省すべき項目はありませんか？

1	次々と少しずつ違う発問を連発していなかったか？（教師の発問が多すぎる。）
2	考える必要がない発問をしていなかったか？（考えさせない発問、見れば分かる発問）
3	抽象的すぎる、または大まかすぎる発問をしていなかったか？
4	どう考えればよいか分からない発問をしていなかったか？（何を答えても一応正しい場合など）
5	児童の思考の流れを乱す発問を次々に出していなかったか？（あっちこっちと質問がとんでる。）
6	発問して児童が分からないと、教師が答えを言ってしまい、自分で答えを言ったという自覚がなく、それがどんなにひどいことか気付かないでいなかったか？
7	「どんな…」 「どう…」 というような質問をすると児童が答えられないので、「…はなに？」 というような質問で間に合わせていなかったか？
8	考えさせなければならないところで二者択一的な発問をして答えを暗示してしまっていたか？
9	正当と逆のことを言って、児童が否定すると理解したと思こんでいなかったか？
10	児童の言いたいことを察知して、教師が補足してやって完全な文にしていなかったか？
11	「…したので何？」 と、あとを促し、本文に書いてある語句を児童に言わせて、よしとしていなかったか？
12	一人の児童の発言を、全体の理解にすり替えてしまっていたか？
13	「分かった」と言ったり、うなずいたりする児童を見て理解したと思こんでいなかったか？
14	本文を根拠にしている児童の発言に対し、どうしてそう思うかを確認したか？
15	授業の流れに関係ないことを発言している児童に引きずられていなかったか？
16	難語句や読み取りのポイントになる表現の部分の意味を経験におろして理解させていたか？
17	児童が授業の新たな展開のきっかけになるような発言をしているのに気付いたか？

書籍紹介

■ 『現代思想 2010年3月号』

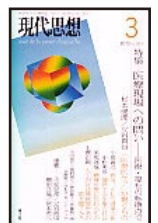
発行／青土社 定価 1,300 円（税込）
「特集＝医療現場への問い」の中で、次のような記事があります。
人工内耳は聴覚障害者の歌を聴くか？ / 上農正剛

■ 『あなたにピッタリが見つかる！ はじめての補聴器選び—コンパクトに一番よくわかる』

監修／柳裕一郎 発行／主婦の友社 定価／ 1,365 円（税込）
最新補聴器のカタログ、選び方、使い方など、補聴器情報が掲載されている。

■ 『高橋潔と大阪市立聾唖学校 手話を守り抜いた教育者たち』

著者／川淵依子 発行／サンライズ出版 定価／ 2,520 円



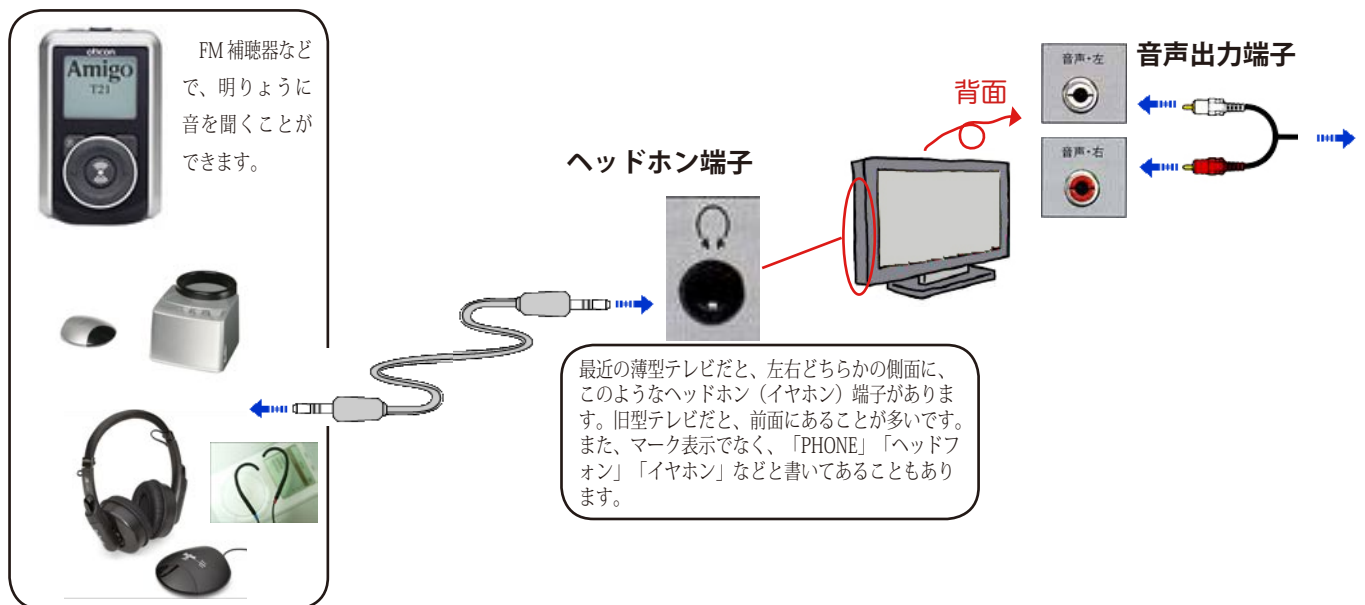
テレビの音声を大音量にしないで、クリアに聞く方法

「子どもが、テレビの音を大音量で聞きたがるので、家族は困る。何か良い方法はないか。」と質問されることがあります。老人性難聴の方の場合にも、似たような問題があり、それを解消するための機器が商品化されているのをご存知でしょうか。

また、「テレビやCDの音をはっきりと聞かせたいけど、何かいい方法はないですか。」と尋ねられることもあります。テレビやCDなどの音を、周囲の騒音の影響を受けずに直接、補聴器で聞けるようにする機器が補聴援助システムです。FM補聴器も、これに含まれ、教室などでも応用できます。

ここでは、テレビ視聴の場合を例にあげて説明してみますが、CDなどでも同じようにセッティングすることで、クリアに音を聞くことが可能になります。

テレビを例にすれば、基本的に音声を取り出すのは、主に背面にある「**音声出力端子 (LINE OUT)**」(赤と白のコードをつなぐところ。)ですが、手っ取り早くできるのが、**ヘッドホン端子**から音声を取り出すシステムです。しかし、ヘッドホン端子 (ジャック) にプラグを差し込むと、スピーカーからの音が聞こえなくなってしまい家族は音が聞けないなどというお困りの声が聞かれます。



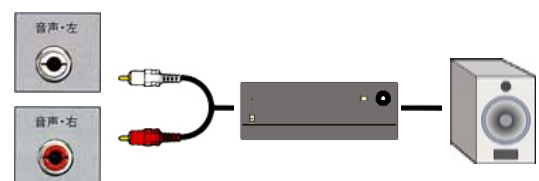
■最近のテレビには、**設定の中に親切モード (TOSHIBA) のような、ヘッドホン端子を使用中でもテレビスピーカーの音を止めないことができるモードに切り替えられる機能**があります。東芝、パナソニック、ソニーではこの機能があるのを確認しています。この場合は、特別なプラグも必要なく、設定をかえるだけでOKです。ヘッドホン端子に、イヤホンやFM送信機などをつなげればよいのです。これによって、周りの人はテレビのスピーカーから聞け、聴覚障害がある方はヘッドホンやFM補聴器で聞けることになります。※テレビスピーカーの音量とヘッドホンの音量を別々に調整することはできるかどうかは、別途、確認が必要です。

■ヘッドホン (イヤホン) 端子が2個付いているテレビの場合

一方はヘッドホンなどのプラグを差し込むとスピーカーの音が切れ、もう一方は差し込んでもスピーカーからも音が出るようになっています。使い分けてください。

■ヘッドホン端子が一つしかない場合

テレビの背面に「**音声出力端子 (LINE OUT)**」(赤と白のコードをつなぐところ)があれば、この端子にオーディオなどのアンプを接続し、アンプに接続した別のスピーカーから音を出せます。ヘッドホン端子には、イヤホンやFMシステムを接続して聞かため、テレビのスピーカーからは音声は聞こえません。別につないだスピーカーからの音声を聞くことになります。



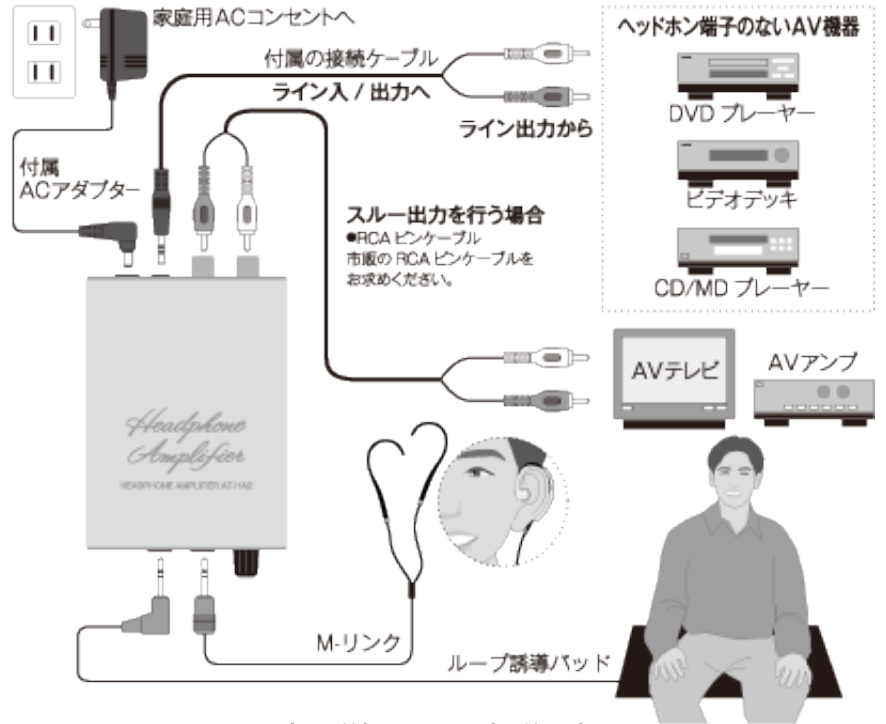
この方法だと、ヘッドホン端子につないだMリンク (4ページ参照) などは、音声がとても小さくて

聞き取れないことがあります。そうした場合には、逆に、音声出力端子から、アンプを介してヘッドホンなどをつなげることも可能です。こうすれば、ヘッドホンなどの音量も好みに応じて可変できることになります。

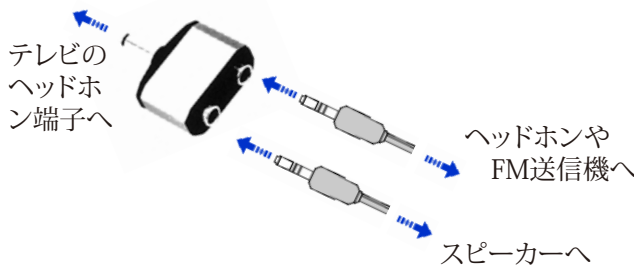
オーディオアンプでなく、右図のような**ヘッドホン音量増幅器**も販売されており、コンパクトで使いよいと思われま

■ヘッドホン端子しかないテレビの場合

ヘッドホン端子以外に出力端子のない場合、下の図のようなジャックからの出力を2分配する変換アダプタを購入します。片方にイヤホンやFM送信機などを、もう片方に小型のアクティブスピーカー（パソコン用の外部スピーカーとしても用いられる、小型のアンプ内蔵スピーカー）を購入、接続して音を出します。この場合も、テレビスピーカーは音が出ないため使用しません。



ヘッドホン音量増幅器PDF取扱説明書より



■**特殊プラグアダプター** (PA-01C) (LARGE(ラージ)有限会社)製、定価1,500円)を使用する方法もあります。プラグの先がパネになっており、これを使うことで、ヘッドホン端子からも、テレビスピーカーからも音が出るようになっています。。JIS規格に適合していないため、使えない機種 of テレビもあります。アダプターは、試してから購入をおすすめします。使える場合でも、テレビスピーカーの音量とイヤホンなどの音量を別々に調整することはできません。

FM補聴器以外にも、次のような補聴システムの接続が可能です。

ヘッドホンレシーバー

送信機

赤外線コードレスヘッドホンシステム

いろいろなメーカーから同様のシステムが発売されています。補聴器をかけたままでも、使用できます。

テレビ視聴スピーカー

いろいろなメーカーから出ています。赤外線のもの外に、FM電波によって音声をとばすものがあります。

もう、大丈夫!

テレビの音量を上げなくてもテレビの音声が耳元でハッキリ聞こえます!

赤外線コードレス耳もとスピーカー

みもとくんα (みもとくんアルファ)

家庭用簡易型ループシステム



テレビ視聴のための家庭用ループです。座布団の大きさのシートにループが入っています。補聴器のTコイルで聞きます。

タイループ



コードをヘッドホン端子につなぎ、輪(ループ)の部分首にかけて、補聴器のスイッチはTコイルにして聞きます。頭の動きで音圧や音質が多少変化します。

Mリンク



装着方法



Tコイル対応の耳掛け補聴器に平行に耳にかけて、補聴器のスイッチをTにしてききます。コイルにあたる部分を補聴器に接した状態で使用するため、音質は若干変化しますが、タイループより安定して聞くことができます。片耳用と、両耳用(デュアル)の2種類があり、黒の外に、iPod用の白も選べます。

おすすめの本紹介

古い冊子なのですが、子育てを今から始める方や、これから就学を迎える方が読まれると良い冊子です。

薄い本ですが、分かりやすく、まとまっています。

京都市伏見にある大山医院(耳鼻咽喉科)に、聴覚障害児のためのきこえの部屋(塾)があり、そこで指導をされていらっしゃる片山高先生が書かれた冊子です。

現在は、場所を別のところに移して、指導を継続中のようです。冊子もまだ、注文が可能なので紹介してみます。

★『たくましく生きる力を育てるハンドブック 普通学級での聴覚障害児の指導』全36ページ(1993、400円)

★『たくましく生きる力を育てる 自立のための子育て』全24ページ(1991 初稿、300円)



注文は、「教育ASSISTきこえ・ことばのへや」へ
TEL・FAX: 075-632-1900
kikokoto@ceres.ocn.ne.jp

ホームページは <http://www4.ocn.ne.jp/~kikokoto/>